

衣食住生活
研究・活動レポート
第 9 号
目 次

「活動報告」

—衣生活研究部門—

1. 生活科学研究会活動 3
「サステイナブルな風呂敷lifeの実践」の研究
講演会「好感を持たれるビジネスマナー」 オフィス成旺 代表 伊藤 享子 氏
研修旅行 神戸ファッション美術館 人と防災未来センター 国立民族学博物館
2. 第11回 伝統文化裁縫コンテスト..... 8
3. 第13回 岐阜マザーズコレクションコンテスト参加 9
4. 第33回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加
&各務原ライフデザインセンター クラブサークル発表会ショー参加 ... 11

—食生活研究部門—

5. 「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告 19
—健康・医療分野 「食と運動で未来の健康」—
—子ども食育分野 「目指せ！野菜・果物博士！」—
—商品開発分野 「素材の味を活かした商品開発」—
—菜園分野 「生産から消費まで」—
6. 第16回 高校生朝ごはんコンテスト 27
7. オープンキャンパスにおける弁当提供の取り組み
～小麦・卵・乳を含まないレシピ・
野菜の嫌われる要因を軽減したレシピの検討～ 30

—住生活研究部門—

8. 各務原市営住宅DIYリノベーション事業 35
9. 実習棟物置小屋建設工事 39
10. 第15回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト2023 41

衣 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

生活科学研究会活動

「サステイナブルな風呂敷lifeの実践」の研究 3

三輪 聖子・宮本 教雄

講演会 「好感を持たれるビジネスマナー」

オフィス成旺 代表 伊藤 享子 氏 5

宮本 教雄

研修旅行

神戸ファッション美術館 人と防災未来センター 国立民族学博物館 6

宮本 教雄

第11回 伝統文化裁縫コンテスト 8

藤木 節子・野口 雅子

齋藤 益美

第13回 岐阜マザーズコレクションコンテスト参加 9

藤木 節子・児玉 愛子

齋藤 益美・野口 雅子

第33回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加

&各務原ライフデザインセンター クラブサークル発表会ショー参加 ...11

藤木 節子・野口 雅子

齋藤 益美

◆目的

生活科学研究会では、毎年研究テーマを決め、研究会委員を中心に生活に役立つ研究活動を行っている。前期に研究テーマに沿って文献調査や実験・実習を実施し、その成果を中間発表として10月の「さぎ草祭」において展示発表し、学生や地域住民、保護者などに幅広く公開している。

近年SDGsの観点から持続可能な社会を目指すための取り組みが、様々な所で行われている。そこで研究会では、古くから日本の伝統文化として受け継がれ、生活の中で活用されてきた風呂敷に注目した。風呂敷は携帯に便利で、何度でも使い続けることのできる道具である。令和5年度の研究テーマを「サステナブルな風呂敷 life の実践」に決めて、快適な衣食住生活の視点から、環境に配慮した生活を送ることができるように、サステナブルな風呂敷の活用法を提案することにした。

◆活動方法

研究会は、7月から12月まで、毎週1回昼休みを活用して活動を行った。

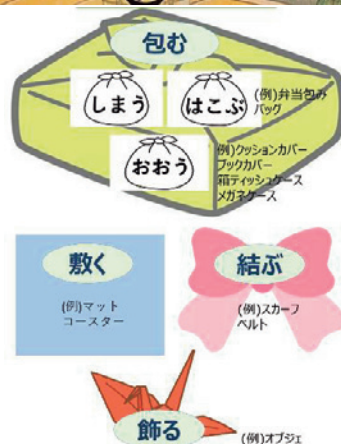
まず文献調査を行い、日本における風呂敷の歴史を調査した。続いて、風呂敷の役割や機能の分析を行い、様々な包み方について調べるとともに、新たな利用方法も考案した。さらに、現在の日常生活に沿って、衣生活における風呂敷の活用事例、食生活における活用事例、住生活における活用事例を考えて提案した。

◆活動結果・考察

風呂敷の歴史は大変古く、利用が始まったのは室町時代からとされている。浴場を大名が利用する際に、他人の衣服と紛れないように、自身の衣服を家紋入りの布で包み、入浴後はその上で着替えを行ったので、この家紋入りの布を風呂敷と言うようになったことがわかった。

風呂敷は、「包む」、「しまう」、「運ぶ」、「覆う」という役割が考えられ、「敷く」、「結ぶ」、「飾る」という美的機能も考慮した利用方法があると思われる。

中間発表では、衣生活における活用方法として、スカーフ、ベルト、メガネケースを提案し、食生活における活用方法として、お弁当包み、エコバッグ、コースターを提案した。住生活における活用方法として、鶴のオブジェ、箱ティッシュケース、クッションカバーを



3.衣生活における活用



【スカーフ】
風呂敷の大きさ 90×90cm
素材 ポリエステル
マイバッグを忘れた時にもすぐに使うことができ、身につけても軽いところが良かった。



【ベルト】
風呂敷の大きさ 90×90cm
素材 綿・ポリエステル混紡
風呂敷の色や柄、結び方を変えることで服の印象を変えることができる。しかし、ベルトと比べて、厚みがあり、着た時に少し圧迫されると感じた。



【メガネケース】
風呂敷の大きさ 50×50cm
素材 綿・ポリエステル混紡
つけていた眼鏡を一度置きたいときや持ち運びに使える。しかし、眼鏡が落ちそうになったことや蓋がないので自分で工夫しなければならぬ。



【お弁当包み】
風呂敷の大きさ 50×50cm
素材 綿・ポリエステル混紡
同じお弁当箱でも布の柄や色を変えれば、印象が変わると思った。その日の気分や、お弁当のおかずに合わせて変えても楽しそうと思う。



【エコバッグ】
風呂敷の大きさ 90×90cm
素材 綿・ポリエステル混紡
結ぶ目が多いためしっかりとバッグになっている。食材を入れると思っていたよりも多くのものが入ることが分かった。



【コースター】
風呂敷の大きさ 50×50cm
素材 ポリエステル
風呂敷を折りたたむだけでコースターになり、水滴も吸い取ってくれるので、机が濡れることなく使いやすかった。

5.住生活における活用



【鶴 (オブジェ)】
風呂敷の大きさ 50×50cm
素材 綿・ポリエステル混紡
風呂敷で作ったため、鶴の形を保てるか心配でしたが保つことができた。家などで飾るオブジェとして使えそうと思う。気分によってオブジェを作り変えることもできると感じた。



【箱ティッシュケース】
風呂敷の大きさ 90×90cm
素材 ポリエステル
50×50の風呂敷で箱ティッシュを包むよりも包みやすく、また、結んだときに後ろに紐部分があるのでベッドにかけたり、フックにかけたりすることができて使い勝手良かった。



【クッションカバー】
風呂敷の大きさ 90×90cm
素材 綿
風呂敷一枚で様々な大きさや形のクッションを包むことができるので経済的だと感じた。

提案した。また、その他の生活場面として、ブックカバー、文庫本包み、雑誌包みを提案した。

中間発表前に生活科学専攻学生に実施した風呂敷に関するアンケートでは、風呂敷のイメージは「昔の人が使っている」という回答が大変多く、「おしゃれなデザインの風呂敷ならお弁当包みになどに使いたい」という回答が多かった。そこでさぎ草祭では、きれいなデザインの織物で「オリジナル風呂敷を作ろう」とワークショップも行った。その結果準備した 60 枚の風呂敷は完売することができた。

風呂敷を日常生活に取り入れることを意識すると、様々な利用方法に気付くことができたが、毎日意識して使用することは難しかった。汚れれば洗濯して繰り返し使用できるサステナブルな繊維製品であるので、日々の生活用品として若者たちにも利用が広がってほしいと考える。

さぎ草祭での
ワークショップ



生活科学研究会活動

講演会 「好感を持たれるビジネスマナー」

オフィス成旺 代表 伊藤 享子 氏

宮本 教雄

◆目的

生活科学研究会では毎年講演会を開いており、生活科学分野に関する知識や技能を深めるために、主に岐阜県で活躍されている専門家に来ていただき、有益な講演をしていただいていた。時には、教職に就きたい学生のために、本学の卒業生で実務経験豊富な現役の先生に来ていただいたり、テキスタイルデザイナーに来ていただいたりした。

ここ数年間はコロナ感染症の影響で、直接人とコミュニケーションをとる機会が少なくなり、就職活動も WEB で実施されることも多かった。しかし、徐々に対面で人と関わることが増加した社会活動で、人とのように関わって良いか戸惑いを覚える学生も少なくない。

そこで研究会では、人とのように関われば好感を持ってもらえるのかを学ぶために、ビジネスマナーの講演会を実施した。

◆活動方法

講師：伊藤享子氏（オフィス成旺代表）

演題：好感を持たれるビジネスマナー

日時：2023年12月13日（水）11:00～12:30

場所：7号館1階 07101 大教室



◆活動結果・考察

社会人としての心構え、敬語について、電話の対応、などを中心に、社会人としてあるべき態度や言葉遣いなど、学生と社会人の違いを、実例を挙げながらご講演いただいた。心構えについて、「真の礼儀とは相手に対する思いやりの心が外に表れたもの」という言葉が印象に残ったようである。

特に、社会に出る一步手前の4年生にとっては、正しい敬語の話し方や電話での対応、マナーの話では、学生と社会人の違いをあらためて感じ、社会人の責任の重さを痛感したようである。

4年生の感想文には、「4月から社会人になるうえで大きく変わることは、責任の重さであると感じる。自己責任だけではなく、学校・社会の責任という大きなものを背負うことになる。だからこそ、礼儀や敬語については、今のうちに勉強しておく必要があると感じた。」という感想があった。

3年生の感想文には、「これからの就職活動や教育実習を控えた自分にとって、礼の仕方、電話対応の仕方など、とても貴重なお話がいくつもありました。今の自分を振り返りながら、マナーの知識を身につけていきたいです。」と、非常に参考になったという感想が多くあった。

最近の大学生にとって、大変有意義な講演であったと思われる。

研 修 旅 行

神戸ファッション美術館 人と防災未来センター 国立民族学博物館

宮本 教雄

◆目的

生活科学専攻では毎年 1 泊 2 日の研修旅行を行ってきた。コロナ感染症が拡大した、令和 2 年度から 4 年度までの 3 年間は日帰りの日程であったが、令和 5 年度はこれまでの 1 泊 2 日に戻して、関西方面のさまざまな施設を見学して研修旅行を実施した。

研修旅行は、授業とは異なる体験を通してこれからの授業、製作活動、研究活動などに活かすことを第一の目的にしており、クラス仲間との交流、学年を越えた関わり、教員との親睦を図ることも、大切な目的にしている。

◆活動方法

日 程:令和 5 年 10 月 28 日(土)～10 月 29 日(日)

研修場所:10 月 28 日(土) 神戸ファッション美術館、人と防災未来センター、南京町

10 月 29 日(日) 国立民族学博物館、ららポート EXPOCITY

◆活動結果・考察

神戸ファッション美術館では、2 グループに分かれて、ライブラリーと展示室を説明付きで見学した。ライブラリーでは、国内外のファッション関連の蔵書約 40,000 冊と 20 世紀初頭からのファッション雑誌のバックナンバーが閲覧できる。説明後の自由時間では、興味のある蔵書を探し当てて読んだり、過去のパッション全集の図解を読んだりし、もっと時間が欲しいとの声が多かった。

展示では、「超・色鉛筆アート展 ～神ワザ 12 人の彩りスタイル」が開催されていた。SNS で作品を発表して有名になった「神ワザ」を持つ 12 人の色鉛筆画家の作品の日本初の展示であった。写真かともまごうような、実にリアルな動物や食品、景色の色鉛筆だけの絵が展示され、学生達は食い入るように鑑賞して、感嘆のため息をついていた。



神戸ファッション美術館での鑑賞



神戸ファッション美術館

人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災で起った事実や経験を展示し、次世代に伝えなければならないと建設された資料館である。甚大な災害が起こらないように、知恵や知識をわかりやすく発信して、災害に強い街づくり、地域づくり、自分の準備など、生活に役立つ取り組みを紹介している。

見学では最初に震災追体験フロアで、実際の阪神・淡路震災の規模の揺れと、街並みの大破壊を疑似体験した。とてつもない揺れに見舞われ、悲鳴をあげて怖がった学生がいた。震災の記憶では、家屋の倒壊や火災が記録され、壊滅的な状況でどのように生命を維持するか、日頃の減災はどうすべきかの展示があった。学生達は極限状況の中でどのように行動すべきかを考えていたようである。

国立民族学博物館は、民族学・文化人類学を中心とした研究・展示を行っている、博物館であると同時に研究所である。世界各地の人々が作り、日常的に使用している生活用具、祭りや儀式的の衣装や楽器、それに彫像などが、展示されている。

学生達が興味をもって見学するかどうか心配したが、生活科学専攻の学生だけあって、世界各地の民族衣装を中心に、興味深げに見学している姿が多く見えた。学生の感想には、「自分の知らない歴史や文化がたくさんあり、不思議な世界観の部分や煌びやかで素敵な部分を感じる反面、不気味な置物やお面もあり、恐怖を感じた所もあった。このような様々な側面から多文化を知るということは、自分とは違う文化や環境、習慣を受け入れ、相手の価値観や考え方を理解することに繋がると強く感じた。理解を深めていくことで、

人とのつながりも増やすことができる感じた。」という記述があり、さらに、もっと詳しく見学したいけど時間が足りないという声もあり、所期の目的は達成できたと感じている。

4年生にとっては最初で最後の宿泊を伴った研修旅行であったので、感慨深い、思い出深い研修旅行になったと思われる。



夕食と南京町



国立民族学博物館前で

第 11 回 伝統文化裁縫コンテスト

藤木 節子・野口 雅子・齋藤 益美

◆ 目的

文部科学省の学習指導要領において、家庭科の「見方・考え方」として、衣食住に係る生活事象を「生活文化の継承・創造」の視点で捉えることが掲げられている。生活科学専攻では、伝統文化裁縫コンテストを通して、中学・高校生が日本の伝統文化に触れ、服飾に関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生活を豊かにするための能力と創造力を育むことをねらいとしている。さらに、ものづくりの楽しさ・素晴らしさを実感し伝統的な技術を継承していける人を増やしたい。

◆ 活動方法

開催から 10 回となった令和 4 年を区切りにし、11 回目から 4 回のシリーズで、テーマを「温故装新～Connect to the future」とし、第 11 回は第 1 弾「古代(古墳・飛鳥・奈良・平安時代)」の伝統的な文化や思想を知り、新しい装いに取り入れながら継承されていくようにとおもいをこめている。コンテストはデザイン画を衣服に仕上げる衣服作品部門と、中学生や被服を専攻していない生徒でも挑戦できるようトートバッグ作品を製作するアイデア作品部門の 2 部門となっている。

◆ 活動結果・考察

第 11 回伝統文化裁縫コンテストには衣服作品部門の一次審査(デザイン画)には 43 点の応募があり、20 作品が 2 次審査対象作品となった。アイデア作品部門には 62 点の応募があった。それぞれの優秀作品は下記のようなものである。



最優秀賞
小島悠乃 (一宮高等学校)



優秀賞
中唄姫彩 (東濃実業高等学校)



優秀賞
世古ひなた (一宮高等学校)



最優秀賞
竹腰永愛
(大垣桜高等学校)



優秀賞
松元咲来
(小牧工科高等学校)



優秀賞
河口朋美
(多治見西高等学校)

第13回 岐阜マザーズコレクションコンテスト参加

藤木 節子・児玉 愛子・齋藤 益美・野口 雅子

◆目的

第13回岐阜マザーズコレクションコンテスト(一般財団法人岐阜ファッション産業連合会主催)に5回目の挑戦をした。「ファッションデザイン画実習」の成果発表の機会であるとともに、ファッション分野に興味・関心を持ち、デザインコンテストへの意欲ある学生を対象とした。

◆活動方法

産学コラボレーションプロジェクト(岐阜ファッション産業ブランド確立支援事業)の一つである岐阜マザーズコレクションコンテストは、岐阜アパレルメーカーと未来のデザイナーを目指す学生とのコンテスト形式の企画である。『お母さんに着てもらいたい「素敵な服」』をコンセプトにお洒落で着易く斬新な未発表オリジナルデザインの公募コンテストである。

今回の応募テーマは「Green」～いつまでも若葉のように自然に美しく～である。生活科学専攻の17名がデザイン画を応募し、一次審査で4名のデザイン画が入選し、作品製作に挑んだ。参加校は本学、岐阜市立女子短期大学、大垣桜高等学校、平野学園清陵高等学校、ヴィジョンネクスト服飾デザイン専門学校、コロビアファッションカレッジ、飯原服飾専門学校の7校である。



写真1



写真2

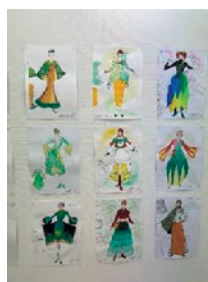


写真3

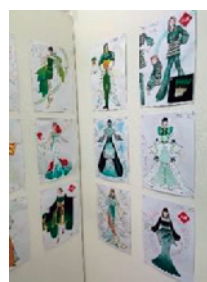


写真4



写真5

写真1～5

一次審査応募作品のデザイン画紹介

写真6～7

ブロンズ賞「岐阜ファッション産業連合会
理事長賞」受賞作品・パネル



写真6



写真7

◆活動結果・考察

デザイン画による一次審査応募作品は写真1～5の通りである。赤の◇マークが一次審査通過10点で、本学は2年玉井菜々美さん、野中優希さん、水野果恋さん、吉川琴莉さんの4点が入選した。

二次審査については、令和5年12月3日(日)岐阜市長住町の岐阜ファッション産業連合会事務所にて審査会が開かれ、2年水野果恋さんの作品がゴールド賞「岐阜市長賞」を、2年玉井菜々美さんの作品がブロンズ賞「岐阜ファッション産業連合会理事長賞」を受賞した。一昨年、昨年に続き連続入賞を果たした。

ゴールド賞受賞の水野果恋さんは「コンテストのテーマは「Green」。緑から受ける自然や平和に、母の包み込む優しさと芯の強さを重ねてデザインしました。ワンピースには無垢の木に着彩したピースをバランスを見ながら1つ1つ手で止めつけ、裾にはピースが揺れるようにビーズを加えました。ジャケットの後ろ身ごろのリーフ形には一番苦労しました。アクリル板をカットし、カーブに気をつけながらまつところが難しく、何度もやり直し、立体感を出しています。襟ぐりや袖、パンツの裾には毛糸を編み、ニードルを使い表生地に差し込みました。今回はしっかりと計画を立て、予定に添ってコツコツ努力し、作業を進めることができ、さらにはゴールド賞までいただき、本当にうれしく思っております。」と感想を述べた。

また、ブロンズ賞の玉井菜々美さんは「綺麗な緑のグラデーションになるように色や温度、時間を考えながら染色しました。和服地を扱うことが今回初めてだったので不安もありましたが、先生方や先輩などたくさんの人に助けをいただいたので素敵な作品を作ることが出来、賞もいただけてとても嬉しいです。初めての経験でわからないことの方が多く、助けてもらってしまったので来年は自分の力で賞をいただけるように頑張りたいです。」とコメントした。



写真8



写真9



写真10

写真8～10 ゴールド賞「岐阜市長賞」受賞作品・バックスタイル・パネル

第 33 回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加

&各務原ライフデザインセンター クラブサークル発表会ショー参加

藤木 節子・野口 雅子・齋藤 益美

◆目的

(一社)岐阜ファッション産業連合会主催、岐阜県・岐阜市後援の「第 33 回ア・ミューズ岐阜」ファッションショーへの参加を通して生活科学専攻の強み、学修成果を発表する機会として 5 回目の参加を決めた。岐阜アパレル業界の未来のデザイナーを応援するというスチューデントプレビューショーである。ア・ミューズ岐阜では、新たな産学プロジェクトの芽になればと岐阜アパレルとファッション専科のある学校とのファッション連携としてのショーが企画され、学生が作品を製作し、ステージ発表を通しての新たなステップを図ることを目的としている。

新たに各務原市西ライフセンター展示発表会への出演依頼があり、ゲスト出演する運びとなった。

◆活動方法

「第 33 回ア・ミューズ岐阜」のファッションショーは昨年度に引き続き、会場には観客限定での開催であった。今回はオープニングの中で岐阜県知事、岐阜市長は岐阜アパレルメーカー製作のスーツを着用してのウォーキングその後、初のファッション産業連合会副理事長の進行で 3 人によるトークセッションが進められた。前回まで行われていたプロモデルによる岐阜アパレル商品を着装披露は無く第 1 部は、第 13 回岐阜マザーズコレクション・コンテスト作品紹介となった。入選作品 6 点、入賞作品 4 点の紹介があり、岐阜女子大学生生活科学専攻からは入賞 2、入選 2 点の披露となった。

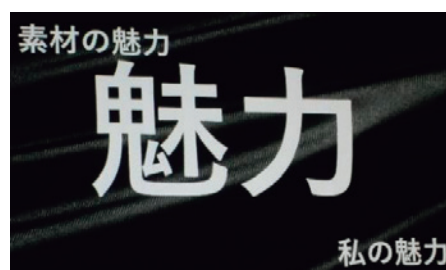
今回もショー参加の協力依頼を受けて学生にとっての貴重な経験ができるため、積極的にチャレンジすることに決めた。ファッションデザイン部及び生活科学専攻の学生にスチューデントプレビューショーへの参加希望者を募り、1 年から 3 年の 19 名の学生が参加することになった。

また、令和 5 年度西ライフデザインセンター主催のクラブ・サークル発表会の「動いて魅せるファッションショー」のトリとして 1～3 年生の 18 名が出演した。

◆活動結果・考察

1. 令和 6 年 3 月 4 日(月)にじゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター岐阜市橋本町 1-10-11)の 2 階特設ステージを会場に開催された。学生と引率教員は 9 時楽屋入り、11 時 30 分からブロックリハーサル後ランスルー(全体リハ)14 時～15 時 45 分、本番は 17 時スタート、オープニングステージ(古田岐阜県知事、柴橋岐阜市長等出演)、Part-1 マザーズコレクション・コンテスト作品紹介、Part-2 での学生出演、全体合同のフィナーレの流れで進んだ。
2. Part-2 のステージにおいて、岐阜女子大学では「魅力」(みりよく)をテーマに、身の回りにある素材の特性を生かし、布地の魅力、自分の魅力を最大限に溢れる作品に仕上げた。

パートは以下の 3 部構成としてまとめた。写真 1 テーマ



パート1 「サスティナブル」

環境のため、そして未来のため、眠ったままの和服を「リメイク」によって生まれ変わらせた作品である。

3年の石神莉子、向井陽菜、木村恵理、宮城愛那の4人。



写真2 テーマと4人



パート2 「COSMOS(コスモス)」

黒を基調とし、アクセントとしてそれぞれの色を加えて、魅力を引き出して、一人一人の輝きを見ていただきたいとテーマとした。

初参加の1年渡瀬愛奈、小林杏子、六浦紗菜の3人、2年野中優希、川上華蓮の2人、3年の伊藤里奈、加藤凜香、落合海音の3人の計8人で構成した。



写真3 テーマと8人



パート3 「Alluring(アルアリング)」

魅力的な私にとっての特別な一着をデザイン・製作した。2年伊東祐芽、玉井菜々美と古澤未蘭、神林玖実、3年呉屋茜空、東優音、檜坂美葉の7人のグループである。



写真4 テーマと7人



スチューデントプレビューでは、第32回に続き今回も岐阜市立女子短期大学デザイン環境学科、学校法人飯原学園飯原服装専門学校、学校法人岐阜学園コロンビア・ファッション・カレッジ、学校法人平野学園清凌高等学校、岐阜女子大学家政学部生活科学科生活科学専攻の5校が順に出演した。

なお、Part-1のステージでは、第13回マザーズコレクションコンテストの表彰状授与、入選作品の紹介が行われた。本学入賞・入選作品を以下に紹介する。



写真5 柴橋岐阜市長から
表彰状授与される
水野果恋さん

写真6 モデルの藤岡萌江さんと
デザイン画





写真7～10 マザーズ作品着装
7水野果恋作品(モデル藤岡萌江)



8玉井菜々美作品
(モデル檜坂美葉)



9野中優希作品



10吉川琴莉作品



写真11
会場じゅうろくプラザ前にて



写真12 スチューデントプレビューショー+マザーズショー出演者全員

－考察－

これまで地元岐阜アパレルならではのファッションショーにコロナ禍を挟み、5回出演する機会を得てきた。誰もが生涯の中で、本格的なランウェイをモデルとしてウオーキングできる機会はないと考えられる。その貴重な機会を学生は経験し、大きな財産、自信となっていると思われる。授業の中で衣服製作は行っているが、テーマを決め始まるデザイン・企画、衣服製作（パターンメイキング、裁断、縫製、仕上げ）、ウオーキング、ポージング、パートでの構成等々、中に人生初のチャレンジがあり緊張ものである。

可能性のある学生が精いっぱい挑戦する姿はかけがえない素晴らしさがある。主催の岐阜ファッション産業連合会の諸事情により、次年度の開催は見合わせるとの連絡が急遽あり、残念ではあるが今後の再開を待ちたいと考える。

ショー参加を終えての学生の思いを以下に紹介する。

『私は、今回はじめてファッションショーに参加させて頂きました。本番では、服を美しくみせることを心がけて歩きました。とても緊張しましたが、同級生と何度も歩きやポーズの練習をして確認したため、堂々と歩くことが出来ました。また、先輩方の歩く姿はとてまかつこよく、参考になりました。多くの事を学び、成長することが出来たファッションショーは、自分にとってかけがえのない体験になりました。自作した衣装を着て歩く場面は、今後の大学生活の中で何度かあるため、今回得たことを活かしつつ、さらにレベルアップできるよう頑張ります。』

写真13 フィナーレの様子



『前回に引き続き、マザーズ作品の衣装を着てステージを歩かせて頂きました。グランプリの衣装だったため、前回以上に緊張感がありましたが、とにかく楽しんで笑顔で歩くことができました。今回は、岐阜女子大学のステージや他の学校のステージを観客席側から見る事が出来ました。他の学校の方の作品も素晴らしく、学校ごとに統一感があり圧倒されました。』

『岐阜女子大学は、どの学校よりも笑顔で楽しんでいることが伝わってくるステージでした。今回の参加が最後になってしまったことは残念ですが、衣装を良く見せる為のポージング・歩き方を学べたり、ステージ上での笑顔の作り方を学べたりと、とても良い経験になりました。デザインから考えて衣装を製作することもファッションショーに出ることも全てが初めての経験でした。最初はデザイン通りに製作できるか不安でしたが、一カ月以上かけて製作をし、完成した時には達成感が大きく、自信につながりました。ファッションショーでは先輩や同級生だけでなく他校の方々の堂々とした姿と衣装のクオリティの高さに圧倒されました。今までにない貴重な経験ができたとても良い機会でした。』

『私は3回目の参加でしたが、緊張しながらも、とても楽しくステージを歩くことができたと感じています。今回は時間があまりない中で製作した衣装だったため、衣装に対しての不安は大きくありましたが、たくさんの同級生や後輩と華やかなステージで歩くことができてとても嬉しかったです。』

『スチューデントプレビューショーは2回目の参加でした。私は高校時代から、「自分でデザインした服を製作し、自分で着る」という夢がありました。この2年間を通して、その夢を大きな舞台で叶えてくれたのがスチューデントプレビューショーでした。服を作ることは大好きなので、これからも製作を続け、技術の向上に努めていきたいと思います。』

3. 令和6年3月9日(土)各務原西ライフデザインセンター主催のクラブ・サークル発表会「動いて魅せるファッションショー」にゲスト出演の依頼をいただき1～3年生の18名が初出演した。

ファッションショー会場は産業文化センター(各務原市那加桜町2-186)1階あすかホールの特設会場である。ホールでは手芸に絵画、毛筆、生け花等の様々な展示がされており、その会場のフロアに飛び出して歩き、観客の方には直近で見えていただけるというショーである。

地域の方々の応援してくださる声や拍手、一人一人にスポットライトを当ててくださりモデル共に感謝しかない。アットホームな雰囲気は心地よく、学生モデルの表情からは頑張ってきてよかったという気持ちをうかがうことができた。さらにステップアップできるように指導していきたい。



写真 14～17 学生モデル、観客と共に

